平成30年室内環境学会学術大会　学生懇談会報告

相川実穂[1)], 増田美里[2)], 土子あみ[1)], 新堂真生[2)], 綿　寛子[1)], 徳村雅弘[2)], 鍵　直樹[1)]

[1)]東京工業大学 環境・社会理工学院　〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1
[2)]静岡県立大学 食品栄養科学部　〒422-5826 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

Report on the 10th practice of student meeting held in annual meeting on Society of Indoor Environment, Japan 2018

Miho AIKAWA[1)], Misato MASUDA[2)], Ami TSUCHIKO[1)], Mai SHINDO[2)], Hiroko WATA[1)], Masahiro TOKUMURA[2)], Naoki KAGI[1)]

[1)]School of Environment and Society, Tokyo Institute of Technology, 2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo 152-8550, Japan
[2)]School of Food and Nutritional Science, University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka 422-8526, Japan

Key words: 学生懇談会（Student meeting），女性研究者（Female researcher），仕事感（Sense of work）

1．はじめに

本学会における学生懇談会は，2009年に第一回が行われてから今年で10回を迎えた。学生懇談会は，本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし，学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場として，大学や専門の垣根を超えて交流が行われているものである。ここでは，学生懇談会の概要の報告と学生からの感想を中心に報告する。

2．実施概要

日時：平成30年12月6日（木）　13:30〜15:00
場所：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館3F　W933教室
テーマ：将来の仕事感
学生世話人：増田　美里（学生会員，静岡県立大学）
　　新堂　真生（学生会員，静岡県立大学）
　　相川　実穂（学生会員，東京工業大学）
　　土子　あみ（学生会員，東京工業大学）
　　綿　　寛子（学生会員，東京工業大学）

今回の学生懇談会においては，静岡県立大学の徳村先生より，静岡県立大学の学生世話人として女子学生の方が担当されるとお聞きし，東京工業大学からも当研究室の女子学生を指名した。ところでこの学会においては，多くの女性研究者・技術者の方が活躍されている。しかしながら国際会議に参加すると，国内の学会以上に女性研究者・技術者が参加され，学会の主たるポジションで発言していることに気づかされる。我が国においては，男性社会であった理系分野の学生（東京工業大学においては，9割近くが男子学生），研究者・技術者の環境から，リケジョという言葉もあるように大学及び産業界において，女性の活躍が期待されているところである。本学会においても，女子学生，そして女性研究者・技術者が今後さらに活動できるような環境作りを行うべきと考えている。この学生懇談会は本来ならば，学生世話人同士で議論してテーマを決定するところではあるが，今回の懇談会では大会長の独断で，研究者・技術者としての室内環境に関係する先輩女性研究者・技術者からお話しを頂き，女性としての仕事感，男性社会の中での頑張りはもちろん，男性諸君も今後の働き

方や家庭での分担など，共通する話題を中心に，「将来の仕事感」と題して企画を行った。なお，学生には，格好の良い先輩を目標に持っていただきたく，これも大会長の独断で，女性研究者・技術者の方から有益なお話がいただけるように，次の会員にご協力をいただいた。萬羽郁子先生（東京学芸大学：学術大会実行委員），高木麻衣先生（国立環境研究所），渡辺麻衣子先生（国立医薬品食品衛生研究所），對馬聖菜先生（早稲田大学），山田容子さん（清水建設）。なお，実行委員長の身近で，声の掛けやすい方に無理にお願いをさせていただいたが，学生懇談会の趣旨に快く賛同して，快諾いただいたものである。この場を借りて感謝を申し上げる。なお，分野も経歴も全く異なることから，幅の広い意見交換ができるのではないかと期待していた。（鍵　直樹）

3．当日の概要

当日は，24名（男子学生：11名，女子学生：13名）が参加した。お昼の時間帯の開催であったため，お昼ご飯としてサンドウィッチとお茶が配られた。大会長である鍵直樹先生による開催趣旨の説明から，懇談会が始まった。続いて，萬羽郁子先生，高木麻衣先生，渡辺麻衣子先生，對馬聖菜先生，山田容子さんの自己紹介が行われ，それぞれの仕事内容についての説明もしていただいた。その後，参加者からの質問に対し，それぞれ回答していただいた。会場からは多くの質問とその回答が飛び交い，活気のある懇談会となった。終了後，先輩女性研究者・技術者とともに，参加者全員で集合写真を撮った。（徳村雅弘）

学生懇談会の様子

4．学生世話人からの感想

女性として研究をしていくということ

相川　実穂（東京工業大学）

今回の学生懇談会では，社会人の先輩方をお招きして学生時代から現在の仕事のことなど大変貴重なお話を聞くことができた。その中で痛感したのは，女性が研究を続けていく上での周囲の理解・協力を得ることの重要性である。進学や仕事の機会が男女で差のないことが当たり前のようになってきた現代でも，女性が博士課程まで進学することや，日本の外に出て自らの知識や技術を役立てたいと望むことには驚きの目を向けられる。特に若いうちは親の心配もあり，それが制約となって活躍の域を狭めてしまうケースも少なくないと感じる。また，結婚・子育てなどの所謂“普通の幸せ”との両立の難しさも女性が研究の道を選ぶ上での障壁となっている。しかしこの両立は周囲の協力があれば不可能ではないということを強調したい。自分の興味ややりたい事を諦めないこと，そして望みを内に秘めず行動に移すことで，道は切り開けるのだと希望を抱ける会であった。

学生懇談会の様子

将来の選択

増田　美里（静岡県立大学）

今回の座談会では，比較的若く，私たちの先輩のような存在である研究者の方々のお話を聞くことができ，大変貴重な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

女性ということは障壁ではなく，男性と同じように働ける環境があること，また，日々の生活についても伺うことができました。先輩方の話を聞いて，女性が研究者として働くことへの障壁が少し低くなった気がします。

また，進路の選択について，お話していただき，先輩方の研究者になるまでの，道のりを知りました。皆さん，素直に研究が楽しいという気持ちを持っていて，それが自然と博士課程への進学や研究を仕事とすることにつながっていることを知りました。好きなことを追求して，仕事にすることはなかなか難しいことだと思うので，研究者として働いている先輩方の姿はとても素敵だと思いました。

女性であることを武器に

土子　あみ（東京工業大学）

今回の座談会では女性の少ない環境の中での女性の研究者のリアルなお話を聞くことが出来ました。女性の少ない職場では女性が不利である印象を受けていたので，その中で男性と同等に働くことは大変なんだと思っていました。しかし，皆さんの話を聞いていると「女性である」という理由で，男性よりも苦労していることが思っているほど多くないということが分かってきました。例えば，苦労していることとして，トイレの少なさや女子更衣室がないことが挙げられていましたが，むしろそのことで男性に気を遣わせてしまうことが多いというお話でした。また，学会に子どもを連れて行くことが出来ないという話でも，旦那さんの理解と助けによってうまくいっているということでした。このように，女性であることをハンデと思うことなく，周囲の男性ともうまく連携しながら研究をしている姿を知り，「女性であること」が理系に進んでいく際の障壁にならないのだと感じました。貴重なお話を聞くことが出来てよかったと思っています。ありがとうございました。

女性研究者の印象

新堂　真生（静岡県立大学）

私が今回の学生懇談会で印象に残っているのは，自分の仕事について明るく楽しそうに話してくださった女性研究者の先輩方の姿だ。私は女性研究者という言葉に少し壁を感じていた。主観的に女性研究者は，趣味や

子育ての様な普通の女性としての生活が困難だと感じていたのかもしれない。しかし，先輩方の中には母親でありながら研究をしている方も多く，懇談会での先輩方の柔らかい雰囲気から，私の中での女性研究者に対する印象が大きく変わった。また，男性の割合が大きい研究者の中で，働きにくさを感じることはなく，男性の理解や協力のもと仕事ができているというエピソードに加え，研究という仕事を通して，自分が関わったものが一つの形になることに，研究のやりがいを感じていると仰っていた先輩方がとても格好良く見えた。私も自分の仕事にやりがいや楽しさを感じ，良い影響を与えられる様な社会人になりたいと感じた。

女性研究者という職の捉え方

綿　寛子（東京工業大学）

学生懇談会に参加し，現在女性研究者として働く先輩方の貴重な話を聞くことができた。学生時代にどのような研究をしていたのか，なぜ今この職についているのか，などの経緯を聞いていると，意外にも，気がついたら自然な流れで研究者になっていた，と明るく話している方が多い印象を受けた。学びたいことを追求していたらそれが仕事になっていた，というのはとても素敵な人生だと思ったし，学部での研究テーマを修士でも続けていこうと考えている私にとってはこの先の自分の方針を後押ししてくれるエピソードだった。

“リケジョ”というワードをよく耳にする時代になったと感じるが，依然研究室は男性ばかりだとか，現場に女子トイレや更衣室が無く男性従業員に気をつかわせてしまうとかいう話も伺った。しかし女性であることをハンデとネガティブに捉えるのではなく，顔を覚えてもらいやすいなどポジティブに捉えて楽しく働いている先輩方を見て，自分もそのような社会人になりたいと思った。

学生懇談会終了後の集合写真